



心動かすアートに出会う

主催: 沖縄県・(公財)沖縄県文化振興会

共催: 久米島町・久米島町教育委員会・東村・東村教育委員会・九州文化協会・沖縄県文化協会
後援: 沖縄タイムス社・琉球新報社・NHK沖縄放送局・沖縄テレビ放送・琉球放送・琉球朝日放送・
エフエム沖縄・ラジオ沖縄

【お問い合わせ先】

(公財)沖縄県文化振興会 TEL.098-987-0926

詳しくはHPをご覧下さい <https://www.okicul-pr.jp/kengeisai/>



美術・書道・写真 公募展 図録

CONTENTS

主催者あいさつ 1

■ 美術公募展

各受賞者作品・審査員講評 2
美術公募展出展作品一覧 6



沖縄県知事
玉城 デニー

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら

第51回沖縄県芸術文化祭の開催に当たり、御挨拶申し上げます。

沖縄県芸術文化祭は、県民の多様な文化芸術活動を奨励し、文化向上と発展を目的として、沖縄が本土復帰をした昭和47年から毎年開催しております。

今年多くの県民の皆様から、写真・美術・書道の各部門合わせて、昨年度を上回る501点の作品が寄せられ、芸術文化活動の広がりを、誠に喜ばしく思っております。

応募いただいた作品の中から、厳正な審査の結果、292点の作品が入選されました。

この度、沖縄県知事賞をはじめ、入賞された皆様並びに入選された皆様、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

作品については、県立博物館・美術館に展示しておりますので、是非足をお運びいただき、多くのすぐれた作品を御覧いただければ幸いです。

また、本展終了後には、久米島博物館及び東村立山と水の生活博物館において、写真移動展を開催します。

さらに本芸術文化祭では、舞台部門として伊平屋村産業連携拠点センターにおいて、重要無形文化財保持者等による組踊や琉球舞踊等の舞台公演を開催するとともに、組踊の楽しさを体感できるワークショップを実施します。

地域住民の皆様をはじめ多くの方々に、沖縄が誇る伝統芸能の魅力を存分に堪能していただきたいと思います。

沖縄県としましては、今後とも県民の皆様が沖縄の文化に誇りと愛着を持っていただけるよう、多様で創造力豊かな文化芸術活動を奨励・支援するとともに、広く芸術鑑賞の機会を提供してまいりますので、引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いします。

結びに、沖縄県芸術文化祭の開催にお力添えいただきました審査員をはじめ、関係者の皆様に深く御礼申し上げ、挨拶いたします。

■ 書道公募展

各受賞者作品・審査員講評 8
書道公募展出展作品一覧 12

■ 写真公募展

各受賞者作品・審査員講評 14
写真公募展出展作品一覧 18

■ 歴代部門別入賞者一覧 20

美術・書道・写真 公募展

本 展

会場：沖縄県立博物館・美術館 入場無料

日時：2022/10/15 土～23日

- 初日10/15(土)は展示時間10:00～20:00(入館は19:30まで)
- 開館時間：9:00～18:00(入館は17:30)
- *金・土曜日は9:00～20:00(入館は19:30まで)
- *10/17(月)休館日



公益財団法人 沖縄県文化振興会
理事長 稲福 弘

「心動かすアートに出会う」

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら

第51回沖縄県芸術文化祭公募展を開催に際しまして、ご挨拶申し上げます。

沖縄県芸術文化祭は、県民の皆様の多様な芸術文化活動の奨励と優れた芸術作品の鑑賞の機会の提供を通して、県民文化の向上に寄与することを目的に昭和47年度から毎年開催しており、今年で51回目を迎えます。

50回目の節目から51回という新たな一步を踏み出すことができましたことも、ひとえに多くの県民の皆様をはじめ芸術家の皆様そして、審査員の先生方の御協力、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

17歳から92歳までの県民の皆様から501点の応募作品があり、厳正なる審査の結果、入選された個性豊かな292点の作品と審査員及び無鑑査資格者の作品を展示いたしております。また写真作品につきましては、本展終了後、多くの地域の方々に鑑賞の機会を広げることを目的とした写真選抜展を東村(東村立山と水の生活博物館)及び、久米島町(久米島博物館)で開催します。

さらに舞台部門では、重要無形文化財保持者等による舞台公演を実施します。国の重要無形文化財である組踊、琉球舞踊の多彩な演目と伝統芸能の奥深さを多くの方々に感じていただければと思います。

沖縄県文化振興会は、みせる・つなげる・ささえる・つくる・そだてるを五つの柱とし、文化芸術活動の支援に全力で取り組んでおります。県民の皆様には、本芸術祭をとおして芸術文化活動を身近に感じ、芸術文化を楽しむきっかけの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、新たに51回目を踏み出した今年は、新型コロナが蔓延する中でも、昨年より応募数がわずかですが増加し、今日ならではのテーマでの創作作品も見受けられました。今の時代の様々な事象、個々の内面等を作品に昇華し、表現するということに果敢に挑戦していくくださった応募者の皆様、ご支援くださった関係者の皆様、そして、いつも丁寧かつ熱意をもって審査してくださった審査員の先生方に心より感謝申し上げ、ご挨拶いたします。

写 真 選 択 展

会場：久米島博物館 入場無料

日時：2022/10/29 土～11/13 日 ※月曜日のみ休館

会場：東村立山と水の生活博物館 入場無料

日時：2022/11/19 土～12/7 水 ※月曜日と11/23(祝)は休館

令和4年度沖縄県伝統芸能公演 重要無形文化財保持者等公演

会場：伊平屋村産業連携拠点センター 入場無料

日時：2022/12/10 土 19時開演

第51回沖縄県芸術文化祭
美術公募展

◆◆◆◆ 美術総評 ◆◆◆◆

コロナ禍により2020年度は中止、昨年度もイベント中止が相次ぐ中、第51回展が開催できたことはとても喜ばしいことである。本土復帰50年の今年度は異常気象に、変異株第7波、ウクライナ危機と更に驚くべきことは我が国の元総理大臣が襲撃される思いもよらない事件が起きた。平和憲法の下で77年間戦争の無かった日本で近年不穏な空気が漂う。平和な時代でしか表現できない美を希求する県民の創造力が発揮される県芸術展。アートの力を信じ芸術祭美術部門に応募され、見事に入選・入賞された方々に多大な称賛を送って頂きたい。芸術の秋、観る人の心を癒し、豊かに表現された美術作品をご覧ください。

今年度の審査会場は美術館・県民ギャラリー奥のアトリエにて昨年より増えた全応募作品を総覧した後、作品審査がスタートした。公開審査の状況を美術館講座室にてモニターで逐一ご覧になれたと思う。午前中は11人の審査委員で117点の平面・立体の応募作品の中から挙手によって入選・保留を慎重に審査し、保留作品9点を論議しながら入落を決めた。午後は作品レベルも昨年より良くなり厳選して入選は66点になった。女性審査委員も増え11人で更に入選の中から優秀な賞候補作品を挙手で行い11点を選出した。正賞の5作品を決定するために賞候補の選出を何度かの投票によって6点に絞られた。更に投票で入賞以上の5点を上位得点順から選び、下位3点を奨励賞とした。上位2点を最終投票にて最優秀の県知事賞を決定し次点が文化振興会理事長賞となった。最高賞の沖縄県知事賞に與那覇勉「地相2022(3)」である。沖縄県文化振興会理事長賞の伊元隆一「朱色のカチャーシー」。奨励賞に平敷傑「あっちゅんヒージャー」、伊志嶺達雄「焦げた十字架」、浦田健二「Nu-tation, Nu-creation 02」。受賞歴のない賞候補から新人賞が決まった。新人賞は比屋根清隆「彼方」、詳細は各審査委員の講評にまかせる。

沖縄の象徴的な首里城が火災で焼失等、現在の沖縄の時代性を反映した応募作品が多々見られる。用の美、沖縄伝統工芸の螺鈿や紅型の高度な技術を駆使した作品が見られる。その中でインスタレーション等、現代美術の中でのジャンルを越えたクリエイティブな新たな表現と挑戦が望まれる。

美術部門審査員長 佐久本 伸光

■ 沖縄県知事賞

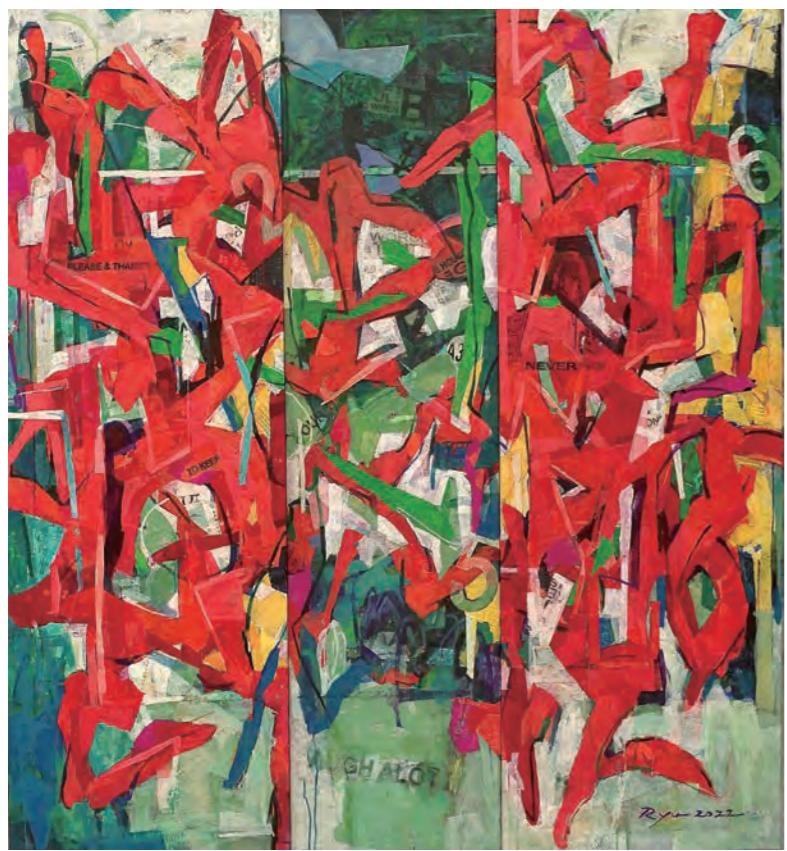
「地相2022(3)」

與那覇 勉



與那覇氏の地相が新しい展開を見せてきたようである。今まで空中に縦に積み重なった地相、つまり普通に言われている地相を作者ながらのこだわりを持ちながらも、ある意味、素直に表現してきたと感じていたが、今回は一見するとジャングルを上から見たような情景である。中心近くに僅かに今までの地相が窺えるが、横への広がりが画面を圧倒している。これまでの地相は空中に突き刺さるようにそびえているその積み重なりの重みと空とが、遺跡のようなものと相俟って、自然の偉大さを、目の前に突きつけているように感じられた。それが突然の変化をみせた。しかし幾度も見返しているうちにジャングルの茂みが大きく回転し、渦を巻きながら広がって行くように見え、しかも茂みの裂け目には今までの地相が潜んでいる様である。地相はどのような深みを見せるのか、これからも期待したい。

講評担当者 西村 立子



■ 沖縄県文化振興会理事長賞

「朱色のカチャーシー」

伊元 隆一

大画面を帯状に朱色が力強くダイナミックに躍動し、鑑賞者に強い印象を与える。それは、複雑に絡み合う枝珊瑚を、乱舞する人々に擬人化したようにも見て取れる。

支持体であるキャンバスは縦に三分割され中央は数センチ奥まって段差がある。

バックの色彩は、思い悩んで色を置いては又、塗り消すを繰り返したのか重厚で深い味わいがある。作者が納得のいくまで格闘した痕跡が伝わってくる。そこを凝視すると、何らかの象徴であろうかローマ字や数字のコラージュが存在する。

朱色は隣接する青、緑、黄などによってその存在感が際立つが、反面互いに対峙するよりも思えてくる。物事には、陰と陽が存在するが本作品は抽象化することで沖縄の現状を声高にではなく深く静謐な表現を試みたのではないだろうか。

青い海、亜熱帯の緑、輝く太陽、観光沖縄と太平洋の要石(キーストーン)として様々な不条理を負う沖縄。この現実を全部チャンブルーにしてカチャーシーで払拭し、より良い未来の到来を待つとの想いだろうか。

後日、伊元氏と受賞作について意見交換したが、表現のキーワードは分断であり、キャンバスの三分割、コラージュのローマ字、色彩の朱色、青、緑などはその事を暗示しているとのこと。作品に秘められた沖縄の現状への憂いや未来志向が凝縮された優作である。

講評担当者 屋良 朝彦



■ 奨励賞

「спалений хрест

焦げた十字架

伊志嶺 達雄

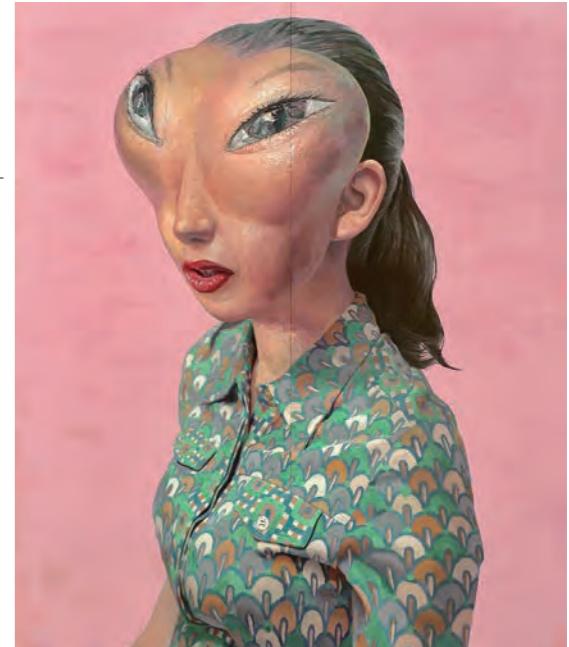
白いドングロス(布)が巻かれた焼け焦げた十字架。その下に転がる焼成された瓦礫状の塊。十字架には、弾丸が刺さり込んでいる。

それは、現代において尚、愚かな我ら人類の引き起こす、軍事武力の不条理な惨禍の象徴であろう。瓦礫に焼き付けられた漂着軽石は、その遠い地の畜行と、キーストーンの地沖縄のはらむ状況課題を、結び付ける役割とされる。

黒々とした立体造形に託された、心理の奥の怒りの熱。白布が想起させる、傷を癒さんとする痛ましき包帯。

力わざ的造形と、内に秘められたデリケートな感性の祈り。その共存の成果が、評価の所以であろう。制作表現する者の共感を込め、尚さらたゆまぬ発信を期待したい。

講評担当者 大城 譲



■ 奨励賞

「Nu-tation,Nu-creation 02」

浦田 健二

浦田氏の作品は、女性像を一部デフォルメし、見るものに対し違和感を与えるような印象的な作品となっており、身体の具象的表現から視点を動かした瞬間! 強い衝撃が走る。違和感だ。

インパクトのある眼球は、冷ややかで移り変わる時代の何を見据えているのか? 今回2点出品しており、制作において人間の内面を表層的表現へと置き換え、刺激的に放出しているかのように感じる。

制作過程を考察すると、ベースにアルミ複合版を活用し、塩ビ素材ヘインクジェット出力と手彩色により、近代的素材活用により自己表現へと繋げていると考える。新しい表現と見ても良いかもしれない。

浦田氏は第48回では新人賞を受賞しており、その力量も実証済みで、近年のデジタル的表現を模索していると考える。

今回の作品は、審査の段階で賞候補として推薦され、独自の視点や表現作品として奨励賞となった。

一つ気になったのが、背面の設置金具であり、芸術作品としての観点から選定が必要かと考える。今後の制作に期待したい。

講評担当者 赤嶺 雅

■ 奨励賞

「あっちゅんヒーボー」

平敷 傑



奨励賞受賞おめでとうございます。

見る者にほんわかとした感情を抱かせる作品です。テラコッタの技法で、デフォルメされたヒーボーが少し大きめの三体、その足下には100体近くの小さなヒーボーが、カーブをえがいて、まさにトコトコと歩いています。

子供の目線に近い大きさで制作された今回の作品から、作者の暖かな心情が伝わってくる良作です。

氏の数々のヒーボーをモチーフにした作品を見てきましたが、並々ならぬヒーボー愛は、幼少期に祖父と育てた頃から育まれたものと聞きます。

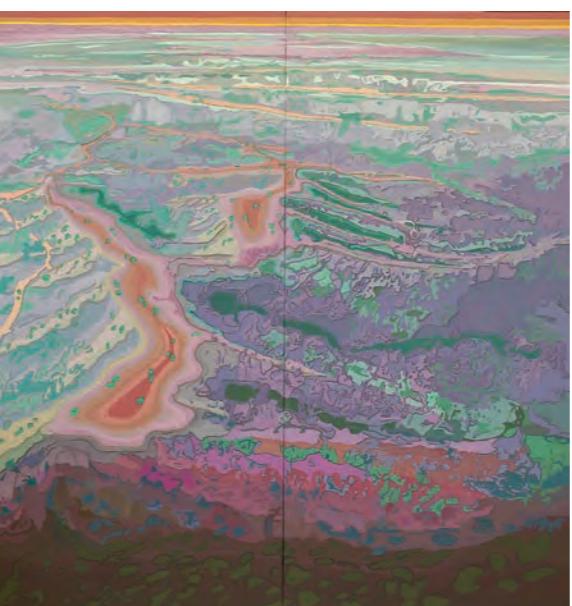
ヒーボーは昔から今日まで沖縄県民にとって「ソウルフード」として根強い人気を誇っています。身近な動物であり、氏は作品として表現している数少ない作家の人だと、思われます。

優しい目は作者の作品からも伝わってきます。

今回はテラコッタの作品で色合いも形もこれまでよりシンプルになり、思わず触れたくなるような仕上がりとなっています。今後も更に展開を重ね、良い作品を生み出して下さることを期待してやみません。

あっちゅんヒーボーの限りない飛躍に。

講評担当者 上原 成美



■ 新人賞

「彼方」

比屋根 清隆

画面の下部は、古い地層の中に化石が堆積し、地表に沿って横に傾れ込むマグマの動きを連想させる。画面上部へ向かって紫の淡いグラデーションが美しく展開される。大地を俯瞰するような、地平線を見据えるような、スケール感のある作品である。

穏やかな色彩や形態であればある程、その中に潜むのは、静かに思考の深海にもぐる姿であり、作者の心のフィルターを通して、つき抜ける程の不条理な悲しみがクローズアップされて来る。作者は言う。我々の日常に付きまとう世界規模の「不安」を描いたと。

地球の重さは、近代の度量衡であるメートル法では、60垓トン(60兆トン1億倍)であると言う。よく人の生命は地球の重さより重いと言うが、過去も現在も絶え間なく人の生命は人の手によって消され続けている。絵画(美術)は何を表現できるだろうか。

これからも優れた作品を期待いたします。

講評担当者 舟那嶺 芳恵

■ 美術公募展作品一覧

審査員出展作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名
時空を超えて	140×99	平面	版画インク(油) クレパス	仲本 和子
鳥啼花	\$100	平面	アクリル画	上原 成美
木立	F40	平面	日本画	西村 立子
MY SPACE (マイ スペース)	90×180	平面	ミクストメディア	屋良 朝彦
壁	91×115.5	平面	アクリル	大城 譲
潮流のラビリンス	F100号	平面	キャンバス アクリルバス	佐久本 伸光
手のひらの消失点	164×164	平面	アクリル	與那嶺 芳恵
home land	70×180	平面	ミクストメディア	山川 さやか
寄り添う不完全な形	93×121	平面	紙・顔料インク	赤嶺 雅

無鑑査出展作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名
Wind Scape	187×96	平面	アクリル	知念 秀幸
Emotional/scene1	180×180	平面	アクリル	池原 優子
羅漢	130×164	平面	油彩、アクリル	鶴見 伸
黒い森	189×189	平面	油彩	平川 宗信

美術入賞作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
沖縄県知事賞 地相2022 (3)	188×177.5	平面	アクリル	與那嶺 勉	与那原町
沖縄県文化振興会理事長賞 朱色のカチャーシー	185×170	平面	アクリル	伊元 隆一	読谷村
奨励賞 あっちゅんヒージャー	43×170 X120	立体	テラコッタ、木	平 敷 傑	那霸市
奨励賞 спаленный крест 焦げた十字架	200×200 X200	立体	鉄、軽石、 流木	伊志嶺 達雄	名護市
奨励賞 Nu-tation, Nu-creation 02	182×152	平面	アクリル	浦田 健二	糸満市
新人賞 彼方	198.5×184	平面	アクリル	比屋根 清隆	沖縄市

美術入選作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
conscious	70×50	立体	陶土	鈴木 まこと	那霸市
懐かしの アチネー風景	145×176	平面	油彩	仲本 潤一郎	沖縄市
ちんなん	110×140	立体	木	仲村 春孝	宜野湾市
青眼すじ金入神様の 永遠眼政策	130×194	平面	油彩	宮城 和邦	大宜味村
南風	69×54	平面	押し花	伊是名 敦子	南風原町
紡ぐ	105×54	平面	顔料 染料(紅型)	相田 あゆみ	与那原町
椰子蟹	9×40	立体	ブロンズ	伊藤 銀	那霸市
トルファンの洋服屋	89×108	平面	油彩	権田 律子	糸満市
成都(チョンドウ)の 裏通り	86×105	平面	油彩	権田 律子	糸満市
モントリオールのカフェ	45×54	平面	押し花絵	安藤 義枝	糸満市
海風、アシムイ	165×115	平面	油彩	狩 保 正	豊見城市
斎場御嶽	165×134	平面	油彩	狩 保 正	豊見城市

美術入選作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
那覇沿岸漁港	107×133	平面	油彩	亀浜 勇吉	那覇市
ファンタジー	135×199	平面	油彩	高原 武子	嘉手納町
首里劇場のある一室	65×50	平面	アクリルガッシュ	渡邊 帆高	那覇市
悠久の賦II	101×127	平面	油彩	大城 裕	南風原町
Pixel-NO.75	53×45.5	平面	AcrylicPaint	森根 貴広	うるま市
首里の大アカギ	110×85	平面	水彩	大城 昌光	那覇市
うみないび	92×80	平面	油彩	下地 りえこ	那覇市
一輪挿し	63×56	平面	油彩	高嶺 伸	那覇市
さんざめく	178×145	平面	水彩	知花 竜也	うるま市
島のハーリー	98×133	平面	油彩	仲間 英子	読谷村
暁の静寂	136×168	平面	油彩	大田 隆男	北中城村
彩海	162×162	平面	油彩	八木 洋子	うるま市
シーサーと 廃家のある風景	115×148	平面	油彩	大城 春信	那覇市
シルバー・ホライゾンⅢ (薄暮)	145×176	平面	油彩(アクリル) セラミックパール	糸洲 英子	豊見城市
若い人	99×68	平面	色鉛筆	城間 文雄	那覇市
AGARI・WORK III	112×183	平面	皮 紙 アクリルフィルム	石原 美智子	与那原町
祈り	133×165	平面	水彩	渡久地 利江子	西原町
何処へ	163×132	平面	油彩	砂川 秀勝	那覇市
Nu-tation, Nu-creation 03	182×152	平面	アクリル	浦田 健二	糸満市
沖縄・永い沈黙	184×186	平面	アクリル	砂川 恵光	浦添市
Summer Dreams	122×76	平面	アクリル	ケイト・オカラハン	恩納村
夏の日	130×162	平面	油 アクリル	津波古 政廣	恩納村
黄色のアパート	195.5×163.5	平面	アクリル	伊芸 匠志	うるま市
回遊	86.5×67	平面	型染 糊 防染(緑、顔料)	又吉 隆史	宜野湾市
黒—NO—構造物	35×45	立体	陶土	神村 吉次	那覇市
グラスのなかの碧	82.5×102	平面	アクリル 水彩 パステル他	大橋 幹	那覇市
マンボウの街	103.5×73.5	平面	デジタル印刷	饒平名 飛鳥	那覇市
始祖鳥珪化木	72.8×51.5	平面	ベニヤ板 ウッドパネル	島袋 大輔	南風原町
再生II	47×83	平面	水彩	中村 俊信	豊見城市
Tsumugu	91×116.7	平面	アクリル	玉元 優江	与那原町
Re-start	55×55	立体	石材(硫球石灰岩、 久米石、ブロック) ベニヤ ワイヤー	加島 治	北谷町
歳月の樹	198.5×133.5	平面	油彩	比嘉 陽子	南城市
遙かなる.3	160×130	平面	油彩	島田 章一郎	那覇市
つながり	162×192	平面	アクリル	仲座 包子	中城村
東北旅路	96×122	平面	水彩	崎野 欣二	那覇市
昂る	45×182	平面	首里城破損瓦	荷川取 大祐	うるま市
白い壁	186×94	立体	発泡スチロール	松本 幸昌	那覇市
旅路21℃	188×188	平面	水彩画	千賀 ちか	中城村
見上げる	90×70	立体	軽量粘土 アクリル絵の具	吉里 裕子	沖縄市
joint-circle	155×130	立体	板材	中澤 将	浦添市
柳	200×91	平面	油彩	長嶺 勝磨	那覇市
習作のモチーフより	122×92	平面	油彩	いがわ はるよし	糸満市
ドライブ イン レストラン	185.5×186.6	平面	油彩	伊禮 亮	嘉手納町
好日	113.5×147	平面	アクリル	赤嶺 史子	うるま市
街の記憶(10)	96.5×67	平面	木版	安次嶺 勝江	西原町
飛翠	72.7×168.1	立体	水彩 アクリル	棚原 麻里奈	那覇市
戦いすんで、夜が明けて… (とよみ大橋と爬龍橋)	95×185.5	平面	水彩	饒平名 知健	西原町
風化∞FLOW	180×180	平面	木版	金城 由美子	豊見城市

第51回沖縄県芸術文化祭 書道公募展

◆◆◆◆書道総評◆◆◆◆

今年度は、漢字・かな・調和体・篆刻・刻字の作品、計122点の応募があった。

朝10時より午後4時すぎまで、11名の審査員で審査を行った。まず、挙手により過半数の賛同を得た110作品を入選と決定する。次に入賞作品を選ぶ審査へと進む。入選110作品を総覧し8票以上獲得の作品の中から「賞候補」と声のかかった21作品(漢字12、かな5、篆刻2、前衛2)を壁面に展示し、2回の投票を経て県知事賞以下入賞5作品が選ばれた。

県知事賞作品は、迫り来るような力強い線、自身の書を深く追求しようとの意気込みが伝わってくる意欲あふれる作品。県文化振興会理事長賞は、長年のひたむきな精進、努力が見事花開いた作、墨色で潤渴のメリハリをつけ安定した運筆でまとめた労作である。奨励賞3作品も、日頃の研鑽ぶりが充分発揮され書き手の熱意が運筆のリズムと共に観る者に訴えかけてくる力作揃いである。

奇しくも今回の入賞者5人、若手(40代)3人、熟年(80代)2人となった。若手3人はこれから沖縄の書をリードして行ってほしい期待の人達であり、熟年2人はこれまで積み上げた技量が今回の作品に繋がった。あきらめずに希望を持って継続することの大切さを示しているとも言えよう。

書道部門審査員長 小杉 紘南



■ 沖縄県知事賞

「秋柳四首」
伊禮 かおる

県知事賞、おめでとうございます。

大字三行、細字三行で構成された六朝体(りくちょうたい)の楷書。六朝体の楷書は素朴さ、雄渾さが特徴で定まった筆法はなく、十の書蹟があれば、十通りの書き方があると言われている。その楷書をベースに自由闊達に表現した事が賞へと結びついたと思われる。

大字の一行目のたっぷりと墨を含んだ「西」と「白」、二行目の「今」と「生」。それとは対照的に「銷」や「痕」の渴筆で墨量の変化をつけ立体感を表現し、更に「影」で大きく伸びやかに放ち次の「祇」で文字を小さく引き締め作品効果を生み出す「收」「放」が随所にみられ躍動感あふれる作品となった。

また、隣接する文字の上下左右にも配慮がみられうまく響き合っている。これは日頃の練習の賜物であり作者の書に向き合う姿勢が伺える。細字三行も大字とつり合いがとれているのが墨量に一工夫あると更に作品効果が上がると思う。今後更なる研鑽を積み精進される事を期待する。

講評担当者 運天 南暘



■ 沖縄県文化振興会理事長賞

「夫に寄す他二首」

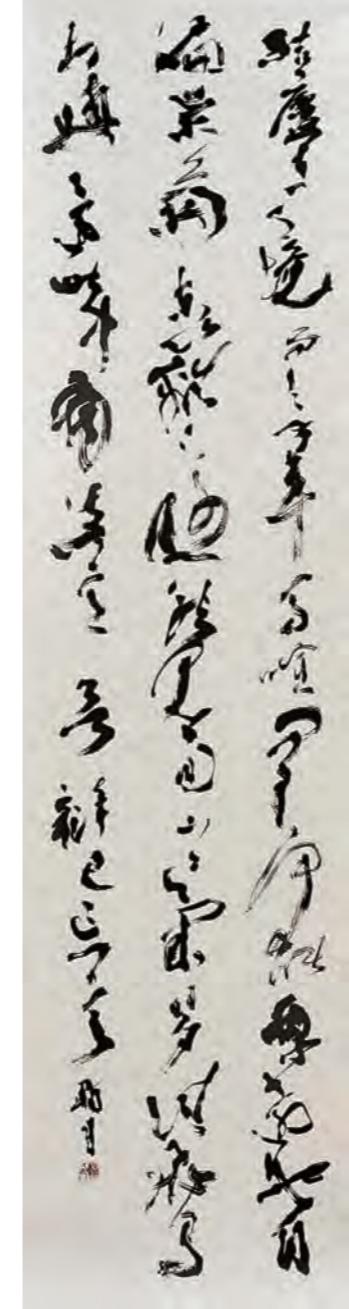
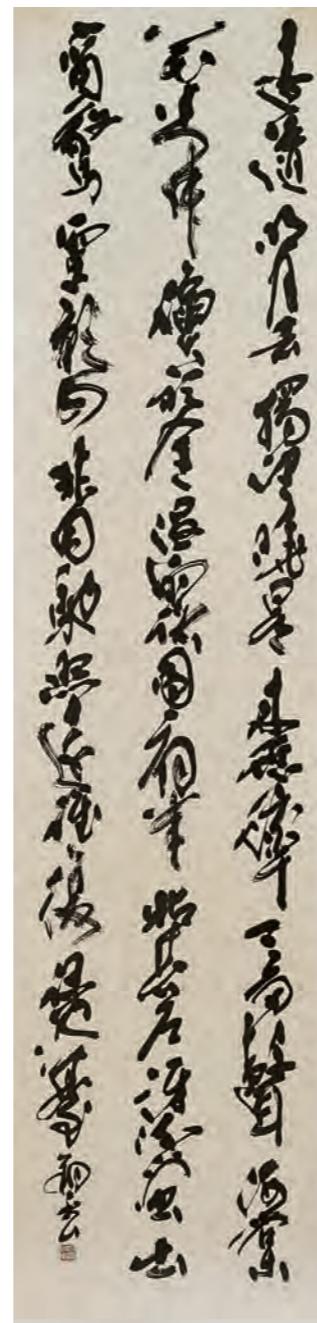
大田 安子

雁飛から始まる漢詩。四行体に小字二行体の作品構成である。

玉鐸調の連綿体で潤渴をねらった佳作である。特に二行目の日帰から空有までの流れが成功している。そして三行目の雨聲の渴筆が二行目を更に盛り上がる役目を果たしている。

作品の基本要素である文字の大小、墨量の変化、文字の疎密を十分考した作品である。また、行間が美しく見る人々を魅了したことでしょう。これまで沖展、中央展等の活躍が今回の理事長賞受賞に結びついたと思う。今後の益々の御活躍をお祈りします。

講評担当者 大城 碧鳳



■ 奨励賞

「陶淵明詩」

東徳嶺 輔

単体により構成される作品であります。文字造形に工夫が見えてなかなか楽しい。

文字と文字との間隔にリズムを感じる事ができる。また、文字の大小がうまく配置されていること、線の太細をうまく取り入れ、全体としてはリズミカルな流れを表現できているかと思いますし、行間の余白が綺麗です。また、全体的に墨量の渴筆のバランスもよく心地よい流れの中でできているかと思います。

今後の作品を期待します。

講評担当者 我喜屋 明正



■ 奨励賞

「小町の歌」

仲里 美代子

この作品は、全懐紙大横長の扇面1枚に、小野小町の和歌を1首づつ書き、計5枚を1組として2×6尺額に縦に並べてある。素直な伸びやかな線で安定感のある書きぶりは、中字作品として成功している。かな書のイメージを代弁するかのような字形・散らし・連綿線は観る者を平安時代の優美な宫廷世界へと誘ってくれる。漢字作品とは違った、日本人独特の感性から生み出された「かな書」の美を楽しませてくれる。筆を持つ喜びと共に無欲で只書き続け、今回も『楽しんで書けた…』とのご本人の話からは、平常心で力まず淡々と書き込み重ねたであろう姿が窺え、日頃の地道な努力の大切さを思うとともにまた、今後のさらなる飛躍のためには、線の細太・墨量の研究が課題であろうか……。

これからも書を生涯の友として書き続けてください。奨励賞受賞、おめでとうございます。

講評担当者 小杉 紘南

■ 奨励賞

「夜起」

金城 久弥

文字を敬う心が師を仰ぎ見る精神を培う。書芸術文化を究むるは稽古鍛錬を怠ることなくが書の道の神髄。如何にして氣韻生動を漲らせる作が生まれるか、作者の心根が全て書作に表象される。

この作は明、清代の古典を基調に五言詩、五十字を三行、行草連綿で纏めた作。真正面から取り組んだ正攻法である。構成、墨量ともにほど良く、行間がとても明るい。細心大胆で流暢な筆捌きは流石である。現在、読売書法展の理事でこの道一筋である。小学生の頃から五体字類を持っていましたと聞く。今後が期待される作家の一人である。更なる精進を乞う。

講評担当者 真喜屋 華泉

■ 書道公募展作品一覧

審査員出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
雖有嘉肴	C	漢字	我喜屋 明正
作品NO2	B横	前衛	濱元 加陽
夏の思い出	B横	調和体	眞喜屋 華泉
つむがれて	B横	かな	村山 穂舟
澤畔(たくはん)	A縦	漢字	仲里 光雲
主私牧者(しゅはわたしのぼくしゃ)	D	篆刻	東江 順子
真復楽	C	漢字	運天 南暘
朝霧	B横	漢字	大城 碧鳳
秋の情景	B横	かな	小杉 純南
文徵明詩	A縦	漢字	砂川 桂峰
求福	B縦	漢字	田名 洋泉

無鑑查出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
趙執信詩	A縦	漢字	島尚美
三峰染月寒	D	篆刻	金城多美子
署中子規を聞く	B縦	漢字	中村裕美
行逢りば兄弟(いぢやりばちよーでー)	B縦	調和体	神山律子
万国津梁鐘銘文之一節	A縦	漢字	上門かおり
行く秋の	B横	かな	新里明美
門を出ず	A縦	漢字	西蔵盛英雄
万国津梁の鐘の銘文より	A縦	漢字	仲舛由美子

書道入賞作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
沖縄県知事賞 秋柳四首	A縦	漢字	伊禮かおる	豊見城市
沖縄県文化振興会理事長賞 夫に寄す他二首	A縦	漢字	大田安子	西原町
奨励賞 夜起	A縦	漢字	金城久弥	八重瀬町
奨励賞 陶淵明詩	A縦	漢字	東徳嶺輔	南風原町
奨励賞 小町の歌	B縦	かな	仲里美代子	南風原町
新人賞 該当者なし	—	—	—	—

書道入選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
漢詩	A縦	漢字	神里和子	南風原町
ピュア(真)	A縦	前衛	渡辺真樹子	読谷村
花の歌	A縦	かな	佐敷博美	豊見城市
有陰徳者必有陽報	D	篆刻	安里涼子	那霸市
澄心静慮龍飛鳳舞	D	篆刻	田頭節子	那霸市
騎虎之勢孤掌難鳴	D	篆刻	山城千恵子	那霸市
温故知新有名無実	D	篆刻	上間道子	那霸市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	伊波エツ子	読谷村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	香村春乃	読谷村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	安里弘子	沖縄市
杜甫詩	A縦	漢字	佐渡山香	宜野湾市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	奥濱喜美子	浦添市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	喜納八重子	読谷村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	田場愛子	沖縄市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	與那霸初子	北谷町
蔡大鼎詩	A縦	漢字	比嘉さつき	沖縄市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	屋宣由季奈	沖縄市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	久志すぎの	沖縄市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	與那霸律子	宜野座村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	島田直子	うるま市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	屋良美香	沖縄市
李白詩	A縦	漢字	仲村冴子	沖縄市
和答楊振采見寄韻(蔡大鼎)	A縦	漢字	新垣貴子	那霸市
陶淵明詩	A縦	漢字	真栄田義之	那霸市
洞庭に遊ぶ	A縦	漢字	湧田市子	沖縄市

書道入選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
海市(蘇軾)	A縦	漢字	永山千里	那覇市
黄鶴樓にて猛浩然の広陵に之を送る他二首	A縦	漢字	新垣惠津子	嘉手納町
秋懷詩	A縦	漢字	上原好美	読谷村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	川上タケミ	北中城村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	宮城律子	宜野湾市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	宮里えり子	浦添市
杜子美詩	A縦	漢字	宮城みち子	中城村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	伊佐直美	宜野湾市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	内間カズ子	浦添市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	有銘盛吉	宜野湾市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	古賀日奈子	西原町
蔡大鼎詩	A縦	漢字	富山美智子	宜野湾市
金雞巖の僧室他二首	A縦	漢字	長堂加代子	読谷村
七言律詩二首	A縦	漢字	上江田敏博	豊見城市
漢詩二首	A縦	漢字	大城さやか	名護市
漢詩二首	A縦	漢字	田港玲子	名護市
真	A縦	前衛	山田瑠美	糸満市
贈陳都師他一首	A縦	漢字	真栄田ミネ子	那覇市
ほとゝぎす	B横	かな	山城早代	那覇市
村居他一首	A縦	漢字	浦崎康哉	名護市
遙同杜員外審言過嶺他二首	A縦	漢字	古堅直子	伊江村
詠謝三首唐蕙翁先生に呈す其二	A縦	漢字	翁長淳	那覇市
韋應物詩	A縦	漢字	天久美津枝	読谷村
旅興其二	A縦	漢字	金城めぐみ	八重瀬町
冬日偶然作	A縦	漢字	龜川盛敏	西原町
靈峰山房にて夜起す	A縦	漢字	小橋川スガ子	那覇市
北帰行	A縦	調和体	金城純子	浦添市
荒城の月	A縦	調和体	高橋直美	那覇市
雜詩其二	A縦	漢字	嶺井由起子	那覇市
雜詩其三	A縦	漢字	平良祥大	南風原町
和陶其二	A縦	漢字	山里昌輝	久米島町
寂寂	A縦	漢字	桑江遼	浦添市
周原幽居	B横	漢字	友利久美子	北中城村
述懷	A縦	漢字	柊崎ケイ子	浦添市
星雲	A縦	前衛	岸本泰子	名護市
秦旭詩	A縦	漢字	上原孝之	豊見城市
北帰行	A縦	調和体	後藤豊彦	那覇市
琉球漢詩二首(蔡肇功)	A縦	漢字	玉那霸明美	与那原町
神無月	B横	かな	仲宗根ひろみ	沖縄市
月すめば	A縦	かな	宮城多佳子	浦添市

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
桜かざして	B横	かな	仲栄真律子	沖縄市
碧瑠璃のそら	B横	かな	内間隆子	うるま市
花の香	B横	かな	比嘉栄子	北中城村
竜田川	B横	かな	饒平名真由美	那覇市
菊の花	A縦	かな	喜友名晴香	北中城村
舞	B横	かな	喜友名正子	北中城村
ふるさと	B横	かな	福原美枝	うるま市
音羽山	B縦	かな	渡慶次喜代美	嘉手納町
天の川	B横	かな	秋広美智子	うるま市
ゆきの花	B横	かな	仲里美智子	宜野湾市
奥山	B横	かな	外間匡美	宜野湾市
あすか川	B横	かな	仲村妙子	沖縄市
杜甫詩	A縦	漢字	仲宗根司	沖縄市
暮春號州東亭送李司馬歸扶風別廬	A縦	漢字	金城綾子	八重瀬町
訪戴天山道士不遇	A縦	漢字	兼島直美	八重瀬町
奉和幸韋嗣立山莊應制	A縦	漢字	知念レイ子	伊江村
晚泊亀山(他一首)	A縦	漢字	友寄恵子	伊江村
曲江春望懷江南故人	A縦	漢字	阿部好弘	伊江村
朱彝尊詩	A縦	漢字	知念一正	那覇市
白樂天詩	A縦	漢字	新城円香	豊見城市
興慶池にて宴に侍す応制	A縦	漢字	大城美季	浦添市
宿玉陽山房他一首	A縦	漢字	仲原真津枝	宜野湾市
与謝野晶子の歌三首	B横	かな	當間秀美	那覇市
落日	B横	かな	志田美代子	浦添市
秋景	B横	かな	伊波正明	うるま市
古今和歌集より恋歌	B横	かな	喜納竹子	与那原町
紀貫之の歌	B横	かな	與那覇博美	那覇市
秋	B横	かな	古波藏悦子	宜野湾市
秋立つと	B横	かな	宮里民子	宜野湾市
防人の歌	B横	かな	宮里キヨ	宜野湾市
秋草	B横	かな	儀間廣子	浦添市
李念茲詩「雲」	A縦	漢字	豊平美奈子	豊見城市
送別他二首	A縦	漢字	与儀好子	那覇市
闕下贈裴舍人	A縦	漢字	謝名堂奈緒子	うるま市
飲中八仙歌	A縦	漢字	糸野川栄子	うるま市
漢詩三首	A縦	漢字		

第51回沖縄県芸術文化祭
写真公募展

◆◆◆◆写真総評◆◆◆◆

昨年よりも応募人数が6名、作品数が23点とやや増えたのはコロナ禍で抑えられていた表現への反動なのでしょうか。

しかし微増ながらも辛口評でいうと、作品は全体的に表現力、パンチ力に欠けるものであった。相変わらず過去に見たような作品群だ。作品をまねる事も大切な写真習得法だが、更に上へ脱皮する事が重要だ。その中で県知事賞に輝いた「吐息をなぞる」は独自の感性が溢れる写真で票割れはしたが県知事賞に十分値する素晴らしい作品であった。

作品には大雑把に言えば二通りの表現方法があり、一つは見せる写真で二つめがイメージをさせる写真だ。「吐息をなぞる」の作品は正に後者に属し見る側に様々な思考を委ねることで作者、見る者との関係性を作り上げることに成功している。これこそが県芸祭の作品たる所以ではなかろうか。だからといって来年も同じ手法が入賞する事はないだろう。最終的には個々の持つオリジナルな表現力なのであると思う。作品作りに悩む方には写真本など学ぶお手本は多くあります。そしてカメラを持ち写す行為をすることが肝要だ。来期は今年以上にインパクトを持つ作品を期待致します。

写真部門審査員長 東 邦定

■ 沖縄県知事賞

「吐息をなぞる」

高野 大



絵画や彫刻、そして写真、その他の膨大な視覚メディアの氾濫は、80年代を皮切りに特有の感覚的な表現を生み出してきた。さまざまなイメージが引用され、混淆し、共存された今、折衷主義的で表層的な感覚は、現在のメディア環境の主流を占めつつある。

今回の県知事賞に輝いた作品、「吐息をなぞる」も新型コロナウイルスという未知との遭遇(社会的状況)に対して、演出された虚構空間を写真化した「コントラクティブフォト」と言える作品である。写真従来の、「撮る」、「写す」から距離をとり、被写体、あるいは空間を「作る」という美術的な側面を導入し、写真に新たな拡張性をもたらしている。

被写体の前に透明のアクリル板置いたことで、作家の伝えたい「閉塞感、希薄感、悲壮感、そして吐息感」、その吐息をなぞる手先の孤独と顔一面のマスク姿、さらに不安定な構図と影は心理的体験のメタファーになっている。より混沌化していく社会に内省的とも思える自己変容が交差し、読み取る力を見る者に要求した深みのある作品である。

県知事賞、お見事です。

講評担当者 浦本 寛史

■ 沖縄県文化振興会理事長賞

「雷雲」
具志堅 一彦



本部半島から伊江島を望み、遠く沖縄本島近くの海や島に人知を超えた自然の営み、雷が降り注ぐ。それは雷様が恵みの雨を降らせるような呑気な昔話の雷鳴ではなく、この世の人の営みに罰を与える、まるで世界の終わりのように見える。自然是恐ろしく、また興味深く、そして美しい。そんな圧倒的な自然の脅威を作品に昇華した。

遠い水平線から雷雲でできた雲の島、そして伊江島の黒い島影を背景にして遠雷が主人公のように暴れまわっている。その前景にキラめくさざ波を配置した。さらに写真そのものに白フレームでしきり、その周りに黒背景を選択して白い絵の具を吹き付けて装飾した。

今回の作品は一見コントロールできない自然をテーマに制作しているが、実は全てのことに制御をさせようとした意欲作である。

講評担当者 仲本 賢



■ 奨励賞

「窓辺の物語」

与儀 文夫

受賞おめでとうございます。

最初、何が写っているのか分かりませんでした。小さな写真を張り合わせたのか???

よく見ると、ホテルのベランダがシルエットになっていて、スナイパーが標的を狙っているスパイ映画に出てきそうなシーンです。画面の荒さが、更にミステリアスです。

更によく見ると、窓に花火が反射しています。なるほど、花火見物には特等席ですね。カップルや、三脚を据えて撮影している方もいますね。

明かりの灯っていない部屋は、会場に行っているのでしょうか? タイトル通り、部屋それぞれの「物語」が感じられます。

花火ではなく、反対側に目に向けるというアイデアが良かったと思います。

『スナップ写真』の語源は、飛び立つ鳥を素早く射る『スナップ・ショット』と言われています。

作者は、諷刺のスナイパー(スナップ写真家)に違いありません。

講評担当者 西原 けんじ

■ 奨励賞

「72年の歴史に幕」

宮良 正子

首里劇場は終戦後の荒廃した沖縄で、いち早く人々の心の痛手を癒そうと建てた劇場で、そこでは沖縄芝居や人間クジラの奇術、学校の学芸会等が行われ、市民の心に明かりをともし続けた歴史ある劇場です。

私も学生時代にベトナム戦争当時、レマック作の「西部戦線異状なし」のモノクロ映画を、硬い木製のベンチに腰掛けて鑑賞し、暗い空間で戦争の悲惨さと愚かさが体の芯まで沁みわたり、映画が終わって明るい外に出たとたん「生きていてよかった!」と歓声を上げたくなる経験をしたことがあります。

作者もその首里劇場が72年の歴史を静かに閉じようとしているのを残念に思い、この作品を創ろうと思ったのでしょう。風雨に耐え抜いた劇場の正面と、その下に長い間この劇場を支えてこられた方が嬉しそうに対応している場面を配置し、さらに劇場内部の静まり返った木製椅子の写真を配置して、劇場の寂しい心の内まで写し込む構成で作品を仕上げることにより、作者の惜別の思いをうまく表現した大変良い作品です。

今後も宮良さんの思いを作品としてどんどん発表してください。楽しみにしています。

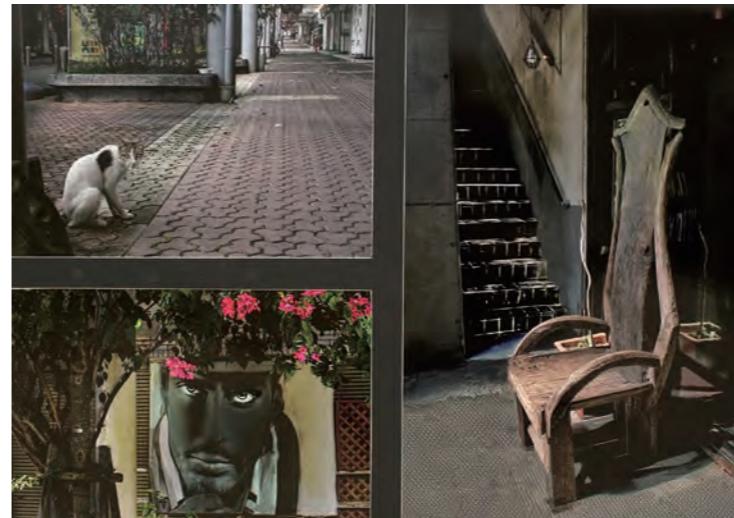
講評担当者 宇久田 全正



■ 奨励賞

「レトロ」

照屋 明



1964年8月2日・4日トンキン湾事件が勃発。これはこの年の2月1日から北ベトナムの破壊を計画した「宣戦布告なき攻撃」「欺瞞の作戦」と呼ばれる作戦の一環として引き起こされた事件であったと言われています。翌年2月7日から本格的なベトナム戦争が開始、嘉手納基地はB52爆撃機の発進基地となりました。

やがて街には米軍関係者の姿が多くみられるようになり、「ゴザ」の街パークアベニューは、ショールーム、看板や、商品等どこか外国のアンティック街を思わせる賑わいを醸していました。

あれから半世紀余り、今のパークアベニューを歩くのに、作者の脳裏にもあの頃の街が浮かんだのでは、そんなイメージの沸く作品に仕上がっていて、観る者をしてレトロの世界へ誘っています。受賞おめでとうございます。

講評担当者 島元 智

■ 新人賞

「記憶の中の彼女」

新里 ゆきえ



日々の生活中で、ふと立ち止まるときがある。ある時、何らかのモノが自分の前に立ち現れたり、または、それがフィルターとなって今まで気づくことのなかつたものを感じさせたり、気付かせてくれる、そんな不思議な人生の一コマがある。

この作品には作り手と、見る側との間に一つの共通の役目としての網入りガラスの存在がある。

網入りガラスを境界として、こちら側とあちら側に、複数の画像のレイヤーが折り重なり合いながら不穏なストーリー性を醸し出している。それはある種の人間関係を現実と非現実の世界を往還させる働きとしても役目を果たしているかのように面白い。

視点を何処に持っていくかによって作品作りも変化していく、新人賞受賞おめでとうございます。

講評担当者 根間 芳和

■ 写真公募展作品一覧

審査員出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
守護神(宮城島)	半切り	単	屋良 勝彦
記憶の中の残像	110×105	組	東 邦 定
遅れ馳せ	90×130	単	島 元 智
春の訪れ	A3ノビ	単	宇久田 全正
見上げてごらん	A3ノビ	単	宇久田 全正
時よ止まれ	A3ノビ	単	宇久田 全正
アーバスへの旅 =Identical twins=	160×110(2枚)	単	浦本 寛史
アドバイス	60×150	組	西原 けんじ
ワイトウイ(切り通し)	42×56(A3)	単	上原 健次
メルカトル・パンノラマ 220820_143429-143644 Peace Memorial Park, Hiroshima JPN	100×150	単	仲 本 賢
あるカタチ I	43×19	単	根間 芳和
あるカタチ II	43×19	単	根間 芳和
あるカタチ III	43×19	単	根間 芳和

無鑑査出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
まつりの子供達	76×130	単	松門 重雄
台風接近	53×64	単	吉直 新一郎
どっちかな	62×72	単	國吉 倖明
ケナー吹きのホセ	104.5×80	単	玉城 健次郎
役者Mの肖像	73×52	単	玉城 健次郎
俺の湯の町エレジー	52×73	単	玉城 健次郎
写真集 久高島情景	A4	写真集	玉城 健次郎

写真入賞作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
沖縄県知事賞 吐息をなぞる	81×158	組	高野 大	宜野湾市
沖縄県文化振興会理事長賞 雷雲	85×132	単	具志堅 一彦	宜野湾市
奨励賞 窓辺の物語	82×112	単	与儀 文夫	中城村
奨励賞 72年の歴史に幕	113×75	組	宮良 正子	うるま市
奨励賞 レトロ	70×100	組	照屋 明	浦添市
新人賞 記憶の中の彼女	51×62	単	新里 ゆきえ	那覇市

写真入選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
雨ふりの日曜日	55×53	組	名嘉 久美子	豊見城市
銀河への祈り	75×60	単	名嘉 久美子	豊見城市
琉球紡織り	77×92	組	諸見里 安吉	うるま市
私の合図を待て!	55×76	単	町田 宗昭	沖縄市
歴史漂う六角堂	61.5×72.5	単	伊藤 俊雄	宜野湾市
何しているの	48.3×68.7	単	高嶺 正美	豊見城市
自然は偉大な芸術家	86×107	組	屋富祖 良敬	那覇市
龍が舞う	43.7×59	単	富村 盛信	那覇市
さあ～かえろうか	62×51	単	赤嶺 喜孝	那覇市
雨やどり	51×62	単	赤嶺 喜孝	那覇市
雨音のメロディー	81×112	組	長濱 大	豊見城市
Umbrella In Sky	60×90	単	知念 清市	今帰仁村
海の見える風景シリーズ-DYNAMIC EARTH-	105×140	単	稻嶺 もりみつ	うるま市
収穫を見守る愛犬	51×62	単	喜納 正雄	与那原町
健康祈願	58.5×39	組	亀谷 長進	浦添市
夕暮れ時	73.5×61.5	単	正木 虎夫	宜野湾市
アーサ収穫	76.5×61.5	単	正木 虎夫	宜野湾市
4・28	110×79	組	正木 スエ子	宜野湾市
あ～うまかった!!	60×44.5	単	楚南 富美子	那覇市
ギャーたすけて～!	61.5×72.5	単	松田 理	北谷町
捕獲(ほかく)	77×107	組	島本 孝一	沖縄市
熱い指導	112×82	組	神田 守	那覇市
オーラ	63×63	単	神田 守	那覇市
海の道しるべ	61.5×72.5	単	具志 明	八重瀬町
カプセルホテル?	59×43	単	米須 末子	沖縄市
胡蝶の舞	27×101	組	新城 直美	宜野湾市

写真人選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
日々平安	86×62	組	新城 直美	宜野湾市
ニライカナイえ	74×60	単	大城 敏雄	与那原町
暮れなずむ	60×74	単	大城 敏雄	与那原町
照れやのぼく	62×51.5	単	安里 涼子	那覇市
朝日に燃ゆる	62×76	単	加島 治	北谷町
同化	62.5×51.5	単	下地 宏	沖縄市
二人で観たサクラ	69×78.5	単	比嘉 久美	南城市
獲り入れのいそしみ	69×78.5	単	比嘉 久美	南城市
飛ぶウナギ 走るカワウ	72×89	単	菅 原 壮	沖縄市
ミサゴのダイビング	72×89	単	菅 原 壮	沖縄市
岩彩	85×113	組	島田 美佐子	うるま市
雪国	112.5×71.5	組	内間 秀太郎	沖縄市
仲たがい	63×51	単	幸喜 あかり	沖縄市
ちむどんどん	51×62	単	嘉手苅 エミ子	豊見城市
男	62×51	単	宮城 哲子	那覇市
異邦人	76.7×61.4	単	安田 正昭	那覇市
再会	61.4×76.7	単	安田 正昭	那覇市
サンセットストーリー	51×62	単	又吉 全一	豊見城市
夏雲の下で	60.5×74.5	単	金城 光男	西原町
威嚇	47×62.5	単	松田 昌一	沖縄市
春をつかむ	78×63	単	原国 政裕	豊見城市
ストリート	64×89	単	又吉 英男	浦添市
天空の男達	64×111	組	我喜屋 功	那覇市
ひまわり	80.5×154.2	組	おおき ゆうこう	南風原町
揺蕩うまに	112×64	組	永味 節子	中城村
夏時間	112×64	組	永味 節子	中城村
ナイスライディング	51×61.5	単	具志堅 一彦	宜野湾市
愛牛を育む闘牛女子	62×76	組	新垣 フミ子	南風原町
神秘の世界	76×2	組	仲吉 佑美香	南風原町
離合集散	83×107	組	上江洲 正宏	那覇市
おつとめを終えて	52×62	単	安次瀬 まり子	那覇市
北のくに	15.3×19.5	写真集	宮城 米子	中城村
落陽の詩	51×63	単	當山 清裕	宜野湾市
停まった時間	84×114	組	本庄 正人	那覇市
雨あがり	103×74	組	本庄 正人	那覇市
Who are you	61×72	単	宮森 和夫	沖縄市
コザ街探索	72×61	組	宮森 和夫	沖縄市
初夏	62×51	単	麓 隼人	那覇市
放置船	113×83	組	花城 雅孝	那覇市
待ち合わせ	63×52	単	花城 雅孝	那覇市
コロナの休日	51×62	単	大城 卓也	糸満市
夏の帰り道	72.3×61.4	単	新垣 隆吾	与那原町

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
人が消えた街	47.3×61.4	単	新垣 隆吾	与那原町
魔女の住む森	51.5×66.5	単	長 堂 哲	読谷村
アグリモンスター	113×83.5	組	新垣 允啓	豊見城市
島時間	63.4×77.4	単	新垣 允啓	豊見城市
岩肌に染まる	62×51	単	高良 美千子	那覇市
外界への旅立ち	62×51	単	城間 由美子	八重瀬町
祝 歌碑誕生	60×130	組	川満 昭男	西原町
眼球	48×63	単	川満 昭男	西原町
「ありがとう」撮影地 久高島	18×19	写真集	出口 由香	南城市
波ニモマケズ	62.5×45.2	単	真栄城 浩	北谷町
赤鬼	53×64	単	我那覇 洋子	那覇市
至福のひととき	69×79	単	砂川 盛榮	浦添市
ひと休み	48.3×32.9	単	儀間 生子	那覇市
市場を駆ける	32.9×48.3	単	儀間 生子	那覇市
ミッショングローブを着た婦人	48.5×64.0	単	喜屋武 敬子	豊見城市
錆びたピット	51.5×62.5	単	桃原 正憲	那覇市
夏の香り	60×90	組	當間 奈津菜	豊見城市
ファンタスティック	52×80	単	比嘉 功助	沖

■ 歴代部門別入賞者一覧

美術公募展

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	奨励賞			新人賞
S52	6	永山 信春	我如古 彰一			上原 隆昭	米須 敏三郎		
S53	7	米須 敏三郎	尚 武			川平 恵造	比嘉 良二	屋良 朝春	
S54	8	永山 信春	米須 敏三郎			川平 恵造	比嘉 良二	与那覇 朝大	
S55	9	与那覇 朝大	喜友名 朝紀			朝内 信二郎	新垣 安雄	瑞慶山 昇	能山 宗忠
S56	10	川平 恵造	青山 映二			新城 剛	砂川 喜代	比嘉 良二	
S57	11	宮城 和邦	浦崎 彥志			上江洲 由朗	川平 恵造	当山 進	
S58	12	川平 恵造	和宇慶 朝健			伊本 隆一	上江洲 由朗	宮城 孝也	
S59	13	和宇慶 朝健	屋良 朝彦			伊本 隆一	砂川 喜代	和宇慶 朝健	
S60	14	上江洲 由朗		比嘉 良二		鎮西 公子	仲宗根 清	山内 盛博	屋良 朝彦
S61	15			金城 満		伊良部 恵勝	金城 準子	宮城 孝也	
S62	16	島袋 喜代子		伊良部 恵勝		金城 準子	知名 久夫	山田 武	
S63	17	金城 満		宮里 観		叶 英樹	知名 久夫	屋良 朝彦	
H1	18	新垣 正一		屋良 朝彦		叶 英樹	三木 元子	山内 盛博	
H2	19	宮里 昌健		長嶺 斎		奥原 崇典	瑞慶山 昇	仲村 春孝	
H3	20	仲里 安広		新崎 竜也		奥本 静江	佐久間 盛義	瑞慶山 昇	
H4	21	奥本 静江		知念 秀幸		知名 久夫	仲本 清隆	宮城 和邦	宮里 昌健
H5	22	知念 秀幸		池宮城 智子		玉城 正明	知念 盛一	比嘉 良徳	
H6	23	又吉 邦華		比嘉 良徳		稻嶺 盛一郎	上原 仁輔	三木 元子	
H7	24	赤嶺 雅		大城 朝康		叶 ひでき	志喜屋 徹	花城 勉	
H8	25	花城 勉		宮城 あすか		赤嶺 雅	奥原 崇典	我謝 弘行	
H9	26	大城 久美子		津波 古 稔		新垣 盛秀	磯村 茂	玉城 正明	
H10	27	松本 妙子		三木 元子		奥本 静江	西平 賀雄	根間 智子	
H11	28	永原 達郎		根間 智子		親川 松清	佐久本 米子	堀川 芽昭	
H12	29	津波 古 稔		豊永 盛人		安里 充広	小橋川 清一	宮城 和邦	
H13	30	与那嶺 芳恵		安富 幸子		大城 久美子	叶 ひでき	佐久本 米子	
H14	31	山川 さやか		桝井 昌智		栗山 絵美子	佐久本 米子	宮里 ユキ子	
H15	32	富元 明雄		与那嶺 芳恵		佐久本 米子	安富 幸子	山川 さやか	
H16	33	波平 栄宏		池原 優子		栗山 絵美子	富元 明雄	宮里 ユキ子	富名腰 ヨシ子
H17	34	池原 優子		富名腰 ヨシ子		上原 はま子	河原 圭祐	安富 幸子	野津 唯市
H18	35	島袋 洋		釣本 成行		仲本 潤光	平川 宗信	上原 英樹	濱元 朝和
H19	36	佐久本 米子		橋本 弘徳		玉城 正明	城間 義夫	野津 唯市	宣保 和可乃
H20	37	奥原 崇典		宮城 翔子		野津 唯市	太田 成美	栗山 ルリ子	
H21	38	普天間 実佳		栗山 ルリ子		宮里 友三	上原 義正	玉那覇 英人	宮城 才子
H22	39	仲里 安広		玉那覇 英人		鶴見 伸	宮里 友三	濱口 真央	並里 幸太
H23	40	鶴見 伸		宮里 昌信		嵩原 武子	與那覇 勉	玉那覇 英人	中澤 将
H24	41	玉那覇 英人		宮里 昌信		鶴見 伸	伊波 則雄	與那覇 勉	金城 知美
H25	42	伊波 則雄		宮里 昌信		宮里 友三	具志堅 古秀	中澤 将	朝妻 彰
H26	43	鶴見 伸		與那覇 勉		北山 千雅子	具志堅 古秀	伊波 則雄	伊志嶺 達雄
H27	44	山城 道		與那覇 勉		仲程 悅子	金城 恵美子	北山 千雅子	饒平名 知健
H28	45	北山 千雅子		嵩原 武子		伊波 則雄	仲程 悅子	松本 幸昌	華山 聖作
H29	46	小泉 ゆりか				伊波 則雄	仲程 悅子	並里 幸太	齋 悠記
H30	47	伊志嶺 達雄				平川 宗信	與那覇 勉	仲程 悅子	力ガミ ジョージ
R1	48	齋 悠記				福田 直樹	與那覇 勉	平川 宗信	松本 幸昌
R2	49	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止							浦田 健二
R3	50	平川 宗信				鈴木 まこと	城間 文雄	砂川 恵光	伊志嶺 達雄
R4	51	與那覇 勉				伊元 隆一	平敷 傑	伊志嶺 達雄	棚原 麻里奈
									比屋根 清隆

書道公募展

年度	回	県知事賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	奨励賞			新人賞
H8	25	島野 裕司	眞喜屋 美佐		上地 徹	香村 大木	比嘉 良勝	
H9	26	島 尚美	中村 裕美		泉 朝信	砂川 榮	比嘉 良勝	
H10	27	中村 裕美	上地 徹		新垣 洋子	砂川 榮	浜口 清子	
H11	28	神山 律子	砂川 榮		荻堂 ひろ子	眞喜屋 美佐	与那覇 典子	
H12	29	神山 律子	玉城 君子		砂川 榮	高江洲 朝則	眞喜屋 美佐	
H13	30	西藏盛 英雄	運天 美代子		島 尚美	長浜 和子	比嘉 千鶴子	
H14	31	比嘉 千鶴子	西藏盛 英雄		金城 多美子	島 尚美	眞喜屋 美佐	
H15	32	比嘉 さつき	我喜屋 文子		金城 多美子	高江洲 朝則	宮里 朝尊	
H16	33	上門 かおり	金城 多美子		高江洲 朝則	長山 りえ子	比嘉 千鶴子	上原 孝之
H17	34	高江洲 朝則	志村 京子		安里 友子	金城 多美子	宮里 朝尊	稻嶺 法子
H18	35	上原 貴子	斉藤 純子		與那覇 律子	宮里 朝尊	田頭 節子	山里 昌輝
H19	36	田頭 節子	斉藤 純子		與那覇 律子	幸喜 石子	山里 昌輝	該当者なし

書道公募展

年度	回	県知事賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	奨励賞			新人賞
H20	37	新里 明美	幸喜 石子			石川 美智代	上門 かおり	山里 昌輝
H21	38	仲舛 由美子	幸喜 石子				仲里 徹	渡久地 美佐子
H22	39	上門 かおり	山里 昌輝					謝名堂 奈緒子
H23	40	金城 真紀子	新里 明美				仲舛 由美子	渡久地 美佐子
H24	41	渡慶次 喜代美	石川 美智代				與那城 千恵子	仲里 徹
H25	42	仲舛 由美子	上運天 春菜				謝名堂 奈緒子	大仲 春奈
H26	43	与那覇 律子	仲里 徹				喜納 京子	城間 律子
H27	44	幸喜 洋人	謝名堂 奈緒子				石津 陽子	田頭 節子
H28	45	真謝 幸代	上原 千枝美				上原 貴子	福原 美枝
H29	46	長堂 加代子		島津 和美			仲里 徹	普天間 完文
H30	47	伊波 エツ子		仲宗根 司			山里 昌輝	金城 真紀子
R1	48	田福 宏美		島津 和美			田頭 節子	城間 美智子
R2	49	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止						
R3	50	知念 一正						
R4	51	伊禮 かおる						

写真公募展

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化
----	---	------	------	-----	-------